

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年2月8日】第72号



楽しみな入学式

2月6日(土)、第二回入学説明会が行われました。4月に入学予定の児童の保護者72名にお集りいただき、入学に向けての準備や心構え、アフタースクールの紹介などが行われました。欠席者もなく全員お揃いの保護者の皆様には、まだ緊張した面持ちも見られましたが、4月からは同級生同士、6年間のお付き合いとなります。節度を保ちつつ、よいお仲間となれることを期待しています。



大切なこと いろいろ

第二回入学説明会では、1)農大稲花小のメンバーとしての自覚をもつこと、2)小学校の学習に専念できる体力や気力が維持できる生活習慣を家庭で整えること、3)正しいマナーでの通学の練習をし、安全の確保をすること、4)児童がまっすぐに育つためには、保護者の正しいふるまいが大切なこと、5)真の学力をつけるために必要なポイント などについて校長からがお話させていただきました。

家庭でのご指導と学校での指導は、どちらも同じように大切です。そして、保護者の姿勢を見て、子どもは育っていきます。子どもが自ら正しい行動をとれる日が来るまで、その柱を作るのはまず、家庭です。そのためにも、これからも丁寧にお子様を育てていただくように願っています。農大稲花小の教職員一同も、日々、子どもたちの成長のため教育に専念しています。

春の兆し 小学校にも

立春も過ぎ、農大稲花小ではお雛様の飾り付けが行われました。お正月から飾っていた羽子板などの装飾から、選手交代です。今年は、東京農大第一高等学校・中等部の卒業生からいただいたたくさんのシクラメンが、さらに校舎内を明るくしてくれています。



お雛様を飾りつけしている最中から、子どもたちは興味津々。また、大切なものは大切に扱うことを知っている子どもたちです。壊されるのでは？などという心配をせずに安心して、飾っておくことができるのもうれしいことです。



手を洗う

まだ水が冷たい朝でも、子どもたちは頑張って手を洗っています。昇降口で靴を履き替えると、まず、アルコール消毒、教室に入る前には水道の水で手洗いと、手指消毒がすでに身についています。ご家庭でのご指導もいただいて、新型コロナウイルスから子どもたちを守る毎日です。

人類は長く様々な感染症と戦って、生き延びてきました。不幸にして子どもたちとの戦いの真ただ中にいます。しかし、感染症防止のために必要な行動、感染した人に対する思いやり、医療関係者をはじめとして社会のために尽くす人々への感謝などを学ぶ経験は、後にこの数年間を振り返る時がくれば、子どもたちの人生に意義のあるもの



だったといえるようになるに違いありません。その時まで、皆様とともに、感染防止に努めてまいりたいと思います。

バイオリウム訪問

2月5日(金)、1年生の児童は、稲花タイムの活動として、東京農業大学「食と農」の博物館・バイオリウムを訪問しました。

新型コロナウイルス感染症防止の方針に従って、1クラスを二つに分けて半数ずつとし、バイオリウムへ。様々な珍しい動植物を擁する展示温室バイオリウムでは、研究者からわかりやすく、丁寧な説明をしていただいただけでなく、巨大なカメの動きを見たり、レムール(ワオキツネザル)の檻の中に入って餌をあげたりと、特別なチャンス頂くことができました。この素晴らしい経験には、児童だけでなく、教員もすっかり魅せられた様子。子どもたちからも、また連れて行ってくださいというリクエストが来ています。

東京農業大学「食と農」の博物館：<https://www.nodai.ac.jp/campus/facilities/syokutonou/>
一般財団法人進化生物学研究所：<http://www.nodai.ac.jp/rieb/index.html>

中高・大学は入試シーズン

農大稲花小学校の入学試験は昨年の秋に終わり、今年の秋の入試に向けての準備がはじまっています。一方、中学校、高等学校、そして大学は入学試験のシーズン。お隣の東京農業大学第一高等学校・中等部も高い倍率を誇り、真剣な表情の受験生と保護者の姿が見られました。また、東京農業大学でも連日の入学試験が、世田谷キャンパスだけでなく全国の会場で行われました。

入学試験の期間は、キャンパスへの入構が制限され、許可がなければ入構ができません。しかし、農大稲花小の子どもたちは登下校のための入構を認めていただき、この期間も安全に通学することができました。ご配慮いただいた東京農業大学に感謝しているところです。子どもたちも、入学試験だからということを理解して「僕も小学校の入学試験を受けたよ」「静かにしようね」などと話しながら歩いているのがほほえましく感じられました。

校長 夏秋 啓子